

【第24回検定3級学科試験】

(はじめに)

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2016年1月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

解答は、選択枝ア～ウの中から1つ選びなさい。

問1

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）において規定されている制度に関して、国際事務局が行うものとして、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際公開
- イ 国際調査
- ウ 国際予備審査

問2

ア～ウを比較して、契約に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 錯誤に基づく契約は無効である。
- イ 口頭のみで書面を作成しない契約は無効である。
- ウ 未成年者は単独で有効な契約を締結できる。

問3

ア～ウを比較して、意匠登録を受けることができる意匠に該当するものとして、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠登録出願後に日本国内において頒布された刊行物に記載された意匠
- イ 他人の業務に係る物品と混同を生ずるおそれがある意匠
- ウ 意匠登録出願前に出願人以外の者の販売により公知となった意匠

【第 24 回検定 3 級学科試験】

問 4

ア～ウを比較して、著作者人格権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作者の名誉又は声望を害する方法により著作物を利用する行為は、著作者人格権を侵害する行為とみなされる場合がある。
- イ 著作者人格権は、著作者の一身に専属するため、譲渡することはできない。
- ウ 著作者の死後に著作物が改変された場合、何人もこの改変行為を差し止めることはできない。

問 5

ア～ウを比較して、商標登録出願の審査に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 拒絶理由通知への対応として、出願当初の願書に記載されていない指定商品・指定役務を追加することは、要旨変更の補正として認められない。
- イ 商標登録出願に対して拒絶理由通知がされ、意見書が提出されたが当該拒絶理由が解消されない場合には拒絶査定がされる。
- ウ 商標登録出願の審査は、出願人からの出願審査の請求を待って行われる。

問 6

ア～ウを比較して、著作物として保護されるものとして、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 舞踊
- イ プログラム言語
- ウ 地図

【第24回検定3級学科試験】

問7

ア～ウを比較して、パリ条約第4条で規定する優先権の優先期間として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 6カ月
- イ 12カ月
- ウ 18カ月

問8

ア～ウを比較して、次の文章の空欄〔1〕～〔3〕に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

不正競争防止法における営業秘密とは、〔1〕生産方法、販売方法その他の〔2〕であって、〔3〕ものをいう。

- ア 〔1〕=秘密として管理されている
〔2〕=事業活動に有用な技術上又は営業上の情報
〔3〕=公然と知られていない
- イ 〔1〕=公然と知られていない
〔2〕=事業活動に必要な経済的価値のある営業上の情報
〔3〕=秘密として管理されている
- ウ 〔1〕=経済的価値のある
〔2〕=事業活動に不可欠な技術上又は営業上の情報
〔3〕=公然と知られていない

問9

ア～ウを比較して、特許出願についての出願審査請求に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 出願審査請求は特許出願と同時にできる。
- イ 出願審査請求の取下げは特許出願人のみできる。
- ウ 出願審査請求をしなければ特許出願の審査は行われない。

【第 24 回検定 3 級学科試験】

問 1 0

ア～ウを比較して、著作権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権者は、著作物の複製物を譲渡により公衆に提供する権利を有する。
- イ 著作権を譲渡するときは当該著作物を譲渡しなければ、譲渡の効果は発生しない。
- ウ 原著作物の著作権者が二次的著作物を複製する場合は、二次的著作物の著作権者の許諾は必要ない。

問 1 1

ア～ウを比較して、発明の進歩性に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 進歩性の判断時は、新規性の判断時と同様に特許出願時である。
- イ 進歩性の判断に際しては、出願前に頒布された刊行物に記載された発明のみならず、出願前に電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明等も審査の資料等として用いられる。
- ウ 当業者とは、その技術分野における高度な知識を有する者をいう。

問 1 2

ア～ウを比較して、1つの特許出願を多数国への特許出願として取り扱う制度を規定する国際的な取決として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許協力条約 (P C T)
- イ パリ条約
- ウ 知的所有権の貿易関連の側面に関する協定 (T R I P S 協定)

【第24回検定3級学科試験】

問13

ア～ウを比較して、弁理士が単独で業として行うことができる業務として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠権についてのライセンス契約の締結の代理
- イ 商標登録出願に関する特許庁における手続の代理
- ウ 実用新案権に関する侵害訴訟の提起の代理

問14

ア～ウを比較して、著作権の存続期間に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 個人の著作物の著作権は、著作者の死後50年を経過するまで存続するため、個人の著作物の著作権の存続期間が経過しているかどうかを判断するためには、その著作者の死亡年だけでなくその月日も調査しなければならない。
- イ 映画の著作物の著作権は、創作後70年以内に公表されないときは、創作後70年を経過するまで存続する。
- ウ 共同著作物の著作権は、最終に死亡した著作者の死後50年を経過するまで存続する。

問15

ア～ウを比較して、商標権の発生と効力に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標権者は、その商標権を侵害した者に対して差止請求等の民事的措置をとることができるが、その侵害者が刑事罰を科されることはない。
- イ 商標権は、登録査定が送達された日に発生する。
- ウ 商標権者は、指定商品若しくは指定役務についての登録商標に類似する商標の使用又は指定商品若しくは指定役務に類似する商品若しくは役務についての登録商標若しくはこれに類似する商標の使用をする権利を専有しない。

【第 24 回検定 3 級学科試験】

問 16

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作物は、創作性がなければならぬため、表現に選択の幅があるほど著作物となる可能性が高い。
- イ 著作物は、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものでなければならぬため、プログラムは著作物として保護されない。
- ウ アイデアは、著作物として保護される。

問 17

ア～ウを比較して、不当な取引制限を行っている事業者に対し当該行為を差し止める排除措置命令を行う行政機関として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 経済産業省
- イ 公正取引委員会
- ウ 特許庁

問 18

ア～ウを比較して、特許出願についての出願公開又は特許掲載公報の発行に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 出願公開の請求は公開特許公報の発行前であれば、取り下げることができる。
- イ 特許掲載公報の発行の日から 6 カ月以内であれば、特許異議の申立てをすることができる。
- ウ 何人も出願公開の請求をすることができる。

【第 24 回検定 3 級学科試験】

問 19

ア～ウを比較して、特許権に基づくライセンス契約に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 通常実施権では、内容、地域、期間を限定して許諾することはできない。
- イ 特許権者は、自己の特許権の全範囲について、専用実施権を設定したときには、特許発明を実施できない。
- ウ 特許権が共有に係るときは、各共有者は、他の共有者の同意を得なくとも、その特許権について専用実施権を設定することができる。

問 20

ア～ウを比較して、特許法で規定されている発明として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア プログラム言語の発明
- イ 物を生産する方法の発明
- ウ 物の発明

問 21

ア～ウを比較して、データベースの著作物と認められるための要件に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア データベースの情報の配列によって創作性が認められるものであること
- イ データベースの情報の選択によって創作性が認められるものであること
- ウ データベースの体系的構成によって創作性が認められるものであること

【第 24 回検定 3 級学科試験】

問 2 2

ア～ウを比較して、意匠法に定める登録料に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 登録後 2 年目以降も意匠権を維持するためには、前年以前に、法に定められた登録料を納付する必要がある。
- イ 意匠権が国と国以外の者との共有に係る場合であって、国以外の者の持分の割合が 50%以上であるときは、国以外の者が全額の登録料を納付する。
- ウ 登録料の納付期限が経過した後でも 6 カ月以内であれば追納することができる。

問 2 3

ア～ウを比較して、特許に関する次の文章の空欄 ～ に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

特許とは、技術的 の創作である発明に対して認められ、特許権を有する者又はその許諾を受けた者のみがその発明を することができるという法的状態を作り出すものである。

- ア = 改良 = 利用
- イ = 思想 = 実施
- ウ = 手段 = 独占

問 2 4

ア～ウを比較して、不正競争防止法に規定される不正競争行為のうち、他人の商品等と混同を生じさせることを要件とする行為として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 他人の商品の形態を模倣した商品を譲渡する行為
- イ 他人の周知な商品等表示を使用する行為
- ウ 競争関係にある他人の営業上の信用を害する虚偽の事実を流布する行為

【第 24 回検定 3 級学科試験】

問 2 5

ア～ウを比較して、特許発明の技術的範囲に関する次の文章の空欄 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

特許発明の技術的範囲は、願書に添付した の記載に基づいて定めなければならない。

- ア = 特許請求の範囲、明細書及び要約書
- イ = 特許請求の範囲及び明細書
- ウ = 特許請求の範囲

問 2 6

ア～ウを比較して、品種登録の要件に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 同一の繁殖の段階に属する植物体のすべてが特性の主要な部分において十分類似していることが必要である。
- イ 品種登録出願された品種の種苗又は収穫物が、出願日から 1 年遡った日前に、外国において業として譲渡されていないことが必要である。
- ウ 品種登録出願前に国内外で公然知られた他の品種と特性の全部又は一部によって明確に区別されることが必要である。

問 2 7

ア～ウを比較して、二次的著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権者に無断で二次的著作物を創作したとしても、著作権の侵害とならない。
- イ 原著作物の翻訳、映画化、編曲など、原著作物に新たな創作性を加えることにより創作された著作物は、二次的著作物となる。
- ウ 原著作物の著作権が存続期間の満了により消滅する場合、二次的著作物の著作権も同時に消滅する。

【第 24 回検定 3 級学科試験】

問 28

ア～ウを比較して、商標登録出願、商標権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標権は更新登録の申請により存続期間を更新することができ、その申請は利害関係人が行うことができる。
- イ 商標権の存続期間の更新登録の申請は、存続期間の満了日を経過した後であっても、一定の期間内であれば、その申請をすることができる。
- ウ 商標登録出願は、出願日から 6 カ月を経過した後に公開される。

問 29

ア～ウを比較して、著作隣接権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 放送事業者及び有線放送事業者の著作隣接権の存続期間は、その放送又は有線放送が行われた日の属する年の翌年から起算して 50 年を経過した時に満了する。
- イ 実演家がパブリックドメインとなった楽曲を演奏した場合、その実演に著作隣接権は発生しない。
- ウ レコード製作者の著作隣接権は、レコードに固定されている音を最初に固定した者に発生する。

問 30

ア～ウを比較して、商標に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 将来においても自己の業務に係る商品又は役務について使用しないことが明らかな商標については登録を受けることができない。
- イ アイデアに化体した業務上の信用は、商標法上の保護対象となる。
- ウ 商標は、文字、記号、図形などから構成され、立体的形状も商標を構成するが、色彩は商標を構成しないため、立体的形状に色彩を付加した商標については、商標法上の保護対象とはならない。

【3級学科】

番号	正解
問1	ア
問2	ア
問3	ア
問4	ウ
問5	ウ
問6	イ
問7	ウ
問8	ア
問9	イ
問10	ア
問11	ウ
問12	ア
問13	ウ
問14	ア
問15	ウ
問16	ア
問17	イ
問18	イ
問19	イ
問20	ア
問21	ア
問22	イ
問23	イ
問24	イ
問25	ウ
問26	ウ
問27	イ
問28	イ
問29	イ
問30	ア